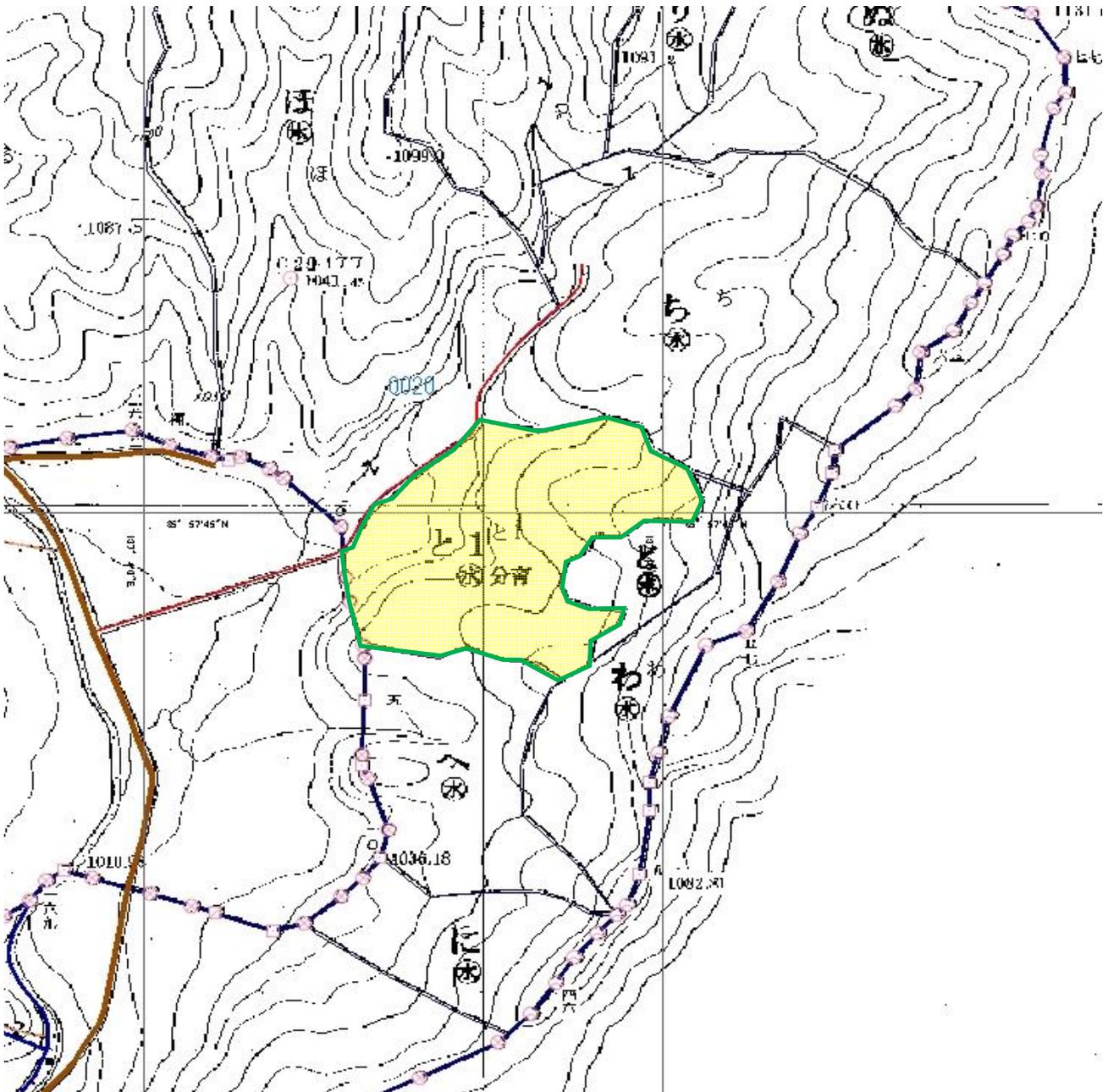


統一課題局別全体計画

中部森林管理局

課題	超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の活用					開発期間	R07～R12	
開発箇所	飛騨森林管理署 マツ谷国有林20と1林小班 龍ヶ峰国有林44い1林小班	面積・プロット数	0.0225ha×18プロット (2国有林×9プロット)	担当部署	森林技術・支援センター 飛騨森林管理署 森林整備課 技術普及課	共同研究機関	岐阜県森林研究所	
課題の分類	統一課題	技術開発基本目標	1	その他関係施策等	森林・林業基本計画、 国有林野の管理経営に関する基本計画			
現状と問題点	エリートツリー等コンテナ苗（特定苗木を含む）については、下刈り回数削減による造林の省力化・低コスト化等が期待され、今後、供給体制が整備されてくるものと考えられる。一方で、その能力を十分に発揮するためには土壌や微地形等が影響するとの調査結果もあり、特にエリートツリー等が良好に成長するには、成長初期に十分な養分が必要と想定される。							
開発目的 (数値目標)	植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を用いたエリートツリー等コンテナ苗の成長促進効果、植栽適地等の検証を行うとともに、5年後の実用化を念頭に再造林の低コスト化の可能性について検証する。							
開発方法								
年度別計画		(令和6年度)前年度	令和7年度年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
	マツ谷国有林	・試験地設定個所の調査 ・植栽用苗の開発 ・基礎データの収集 ・試験地設定	・試験地地拵え ・試験地防護柵設置 ・試験地植栽 ・植栽時の調査 ・成長量調査(10～11月) ・C区分判定 ・土壌調査	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定 ・取りまとめ
	龍ヶ峰国有林	・試験地設定個所の調査	・試験地設定 ・試験地地拵え ・試験地防護柵設置 ・植栽用苗の開発 ・基礎データの収集	・試験地植栽 ・植栽時の調査(4～5月) ・成長量調査(10～11月) ・C区分判定 ・土壌調査	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定	・成長量調査(10～11月) ・C区分判定 ・取りまとめ
中間報告					○			
原課・原班の意見	<ul style="list-style-type: none"> 下刈作業が不要となるまで成長量調査を継続予定のため、試験期間の最終年度は流動的。 試験地の土壌調査を実施する。 							
その他	<ul style="list-style-type: none"> 中部森林管理局技術開発委員会より、試験地及び周辺の「地位」と土壌型について明らかにする必要との意見があり地位分布図を作成した。また、土壌調査を実施し土壌型の確認を行う。 							

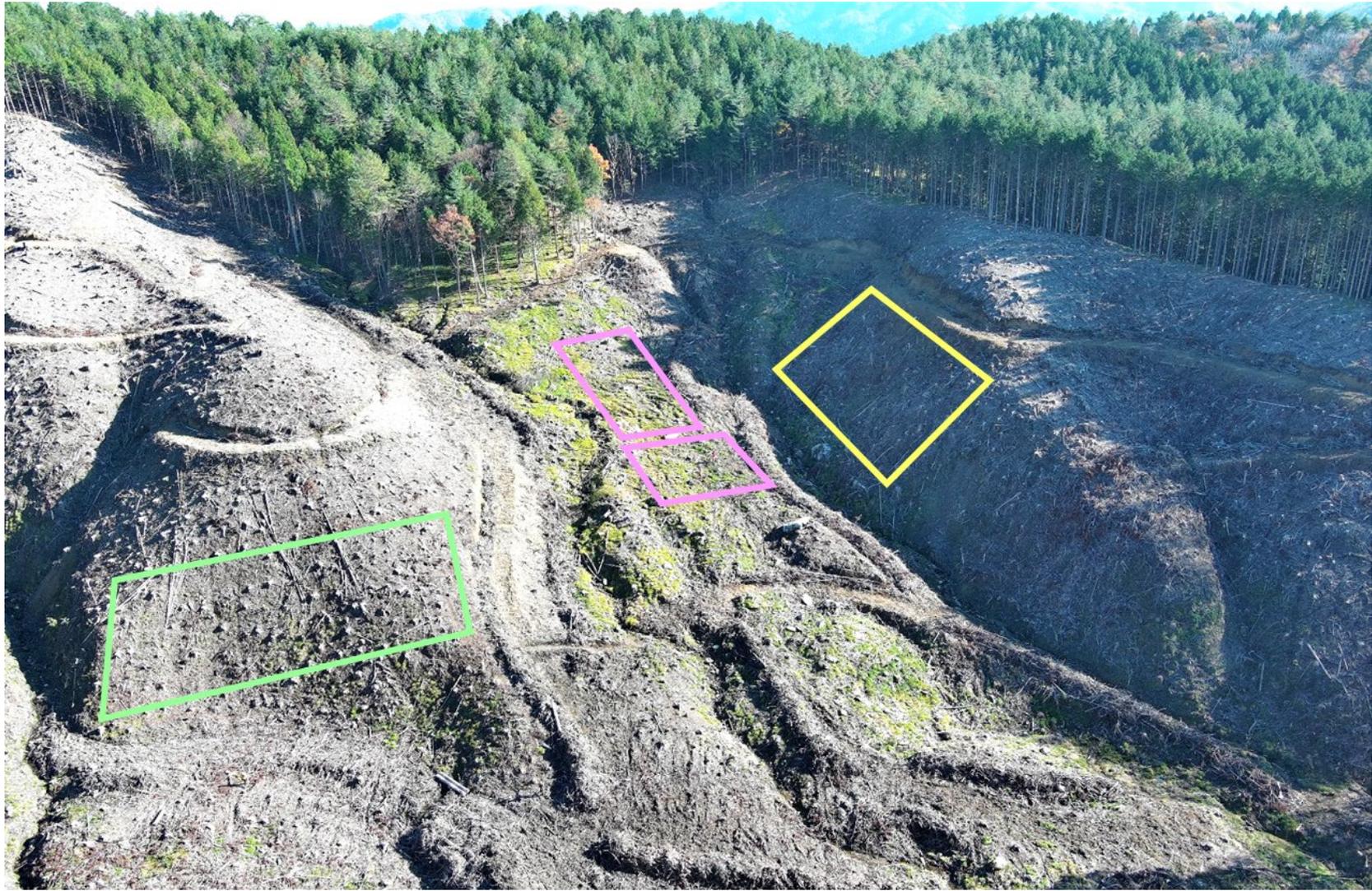
森林管理署	担当区	森林事務所	国有林	林小班	林地面積	小班面積	機能類型	施業群
飛騨	大原	三日町	マツ谷	20と1	3.18ha	3.18ha	水涵タイプ	小分散
植栽予定	樹種	ha本数	総本数		種類		規格	配布区域
	スギ	2.2千本/ha	7,000本		コンテナ：少花粉		35上	第二区



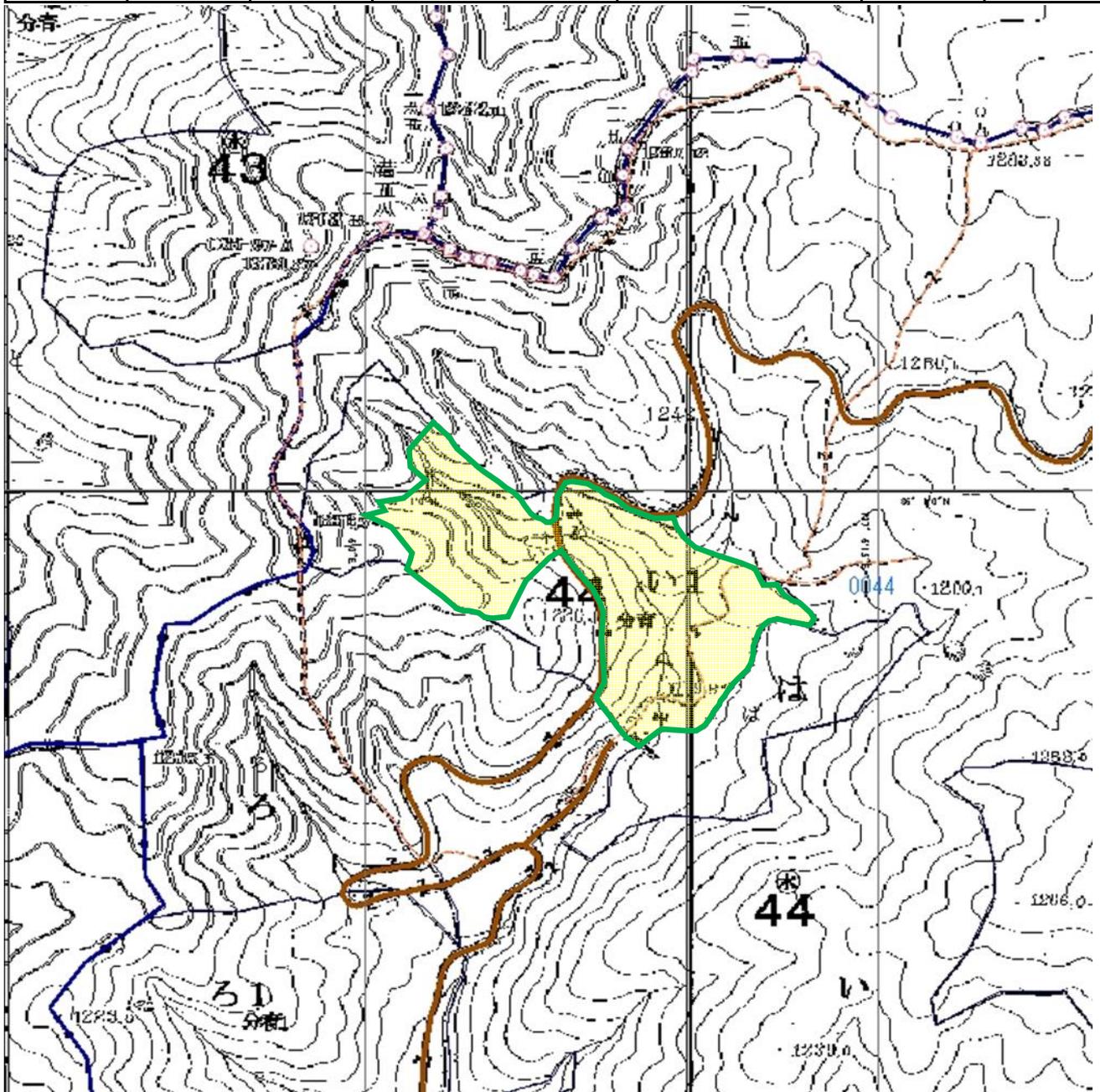
林況等	傾斜	地質	土壌型		方位	標高	林道距離
	15~30未満	結晶片岩	適潤性褐色森林土	BD	西	1,100未満	200m未満
保安林	タイプ	植栽指定	指定樹種等		制限等	法令等	
	水源涵養	有	スギ	2.2千本/ha		鳥獣害防止森林区域（ニホンジカ）	
備考							

マツ谷国有林20と1林小班 オルソソ画像





森林管理署	担当区	森林事務所	国有林	林小班	林地面積	小班面積	機能類型	施業群
飛騨	大原	三日町	龍ヶ峰	44い1	2.96ha	3.11ha	水源タイプ	小分散
植栽予定	樹種	ha本数	総本数		種類		規格	配布区域
	スギ	3.0千本/ha	13,200本		コンテナ：少花粉		35上	第二区



林況等	傾斜	地質	土壌型		方位	標高	林道距離
	30以上	流紋岩	適潤性褐色森林土	BD	東	1,100未満	200m未満
保安林	タイプ	植栽指定	指定樹種等		制限等	法令等	
	水源涵養	有	スギ	3.0千本/ha		無し	

備考